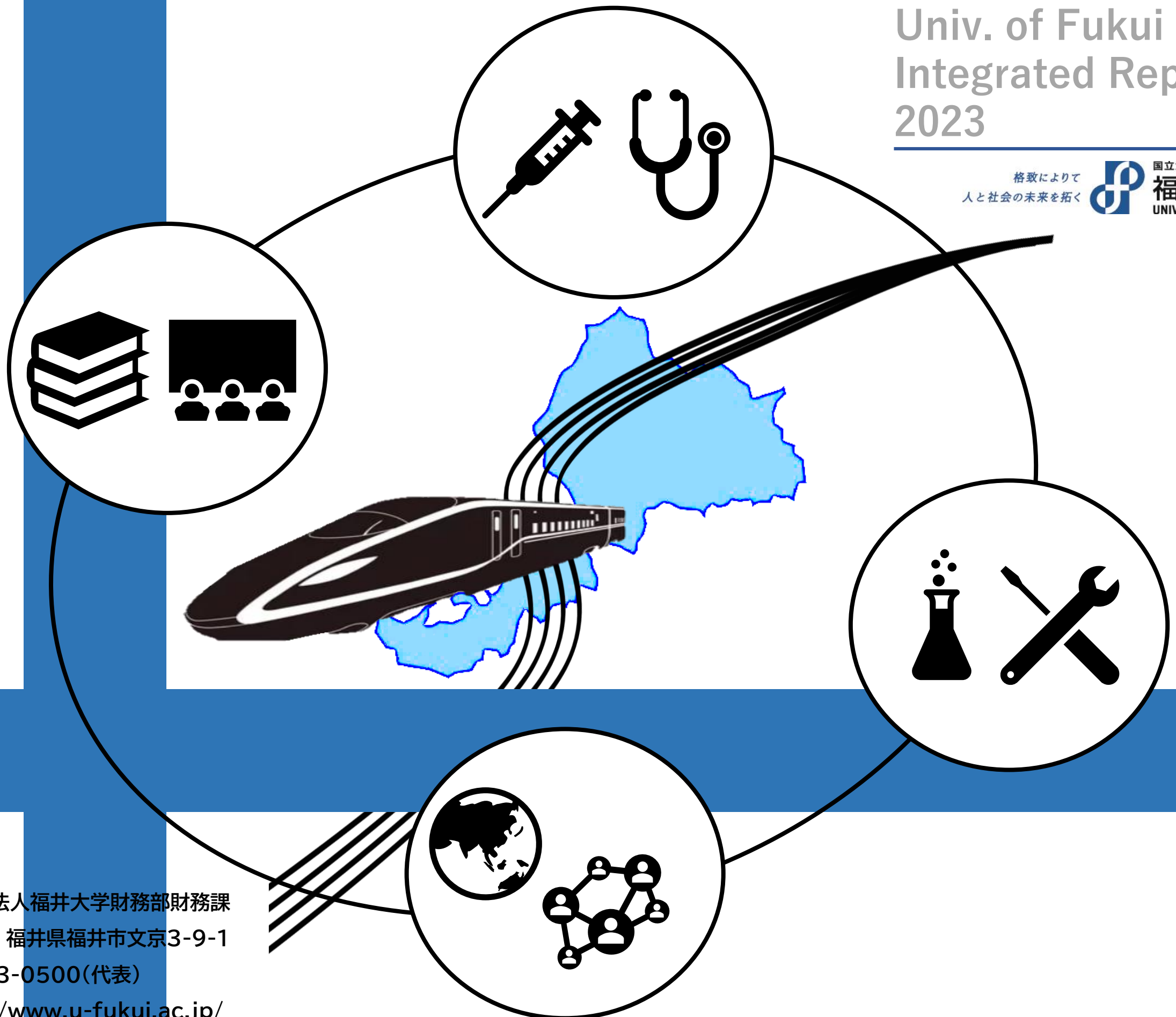


Univ. of Fukui Integrated Report 2023

格致によりて
人と社会の未来を拓く



国立大学法人
福井大学
UNIVERSITY OF FUKUI



発行: 国立大学法人福井大学財務部財務課
〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1
TEL: 0776-23-0500(代表)
URL: <https://www.u-fukui.ac.jp/>
発行年月日: 令和6年1月

CONTENTS

◆理念／学長メッセージ……P1

◆巻頭特集／数字で見る福井大学……P5

◆教育・研究成果……P9

◆各学部・研究科等紹介…P15

教育学部／教育学研究科・福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科

医学部／医学系研究科

工学部／工学研究科

国際地域学部／国際地域マネジメント研究科

医学部附属病院

◆キャンパス環境……P25

◆福井大学のガバナンス体制……P27

◆福井大学基金(羽ばたけ基金) ㊦…P29

◆財務状況・財務諸表……P31

◆公開情報……P39



格致によりて 人と社会の未来を拓く

近代福井の礎（いしずえ）を築いた松平春嶽の揮毫による本学所有の「格致」の額面は、同人の歴史的功績を考えれば本学の宝であると言えます。「格致」とは「物事の道理や本質を深く追求し、理解して、知識や学問を深め得ること」という意味です。

本学学生にとっては、学びと人格育成に際し、また教職員においては、研究・教育・地域貢献等で自らの指針となる語句です。我々は、この語句を旨とし、県内より世界に至る様々な地域において、そこに集う人、ならびに社会の未来を拓くことに主体的にかかわり、貢献することを目指します。

福大ビジョン2040

この度、本学の理念を実現するための道標として、2040年に向け、福井大学の未来像を具現化するため「福大ビジョン2040」を策定しました。全教職員とともに理念とビジョンに基づいて、共感性を高め、果敢に挑戦していくものです。そして、地域の方々、同窓会などとともに、新たな未来を拓くことを囑望します。

ビジョンに示した2040年は先のことにも見えますが、社会の変革期に合わせて、本学の力を最大限に発揮するために、重要な目標地点になります。「福大ビジョン2040」は、地域の方々、同窓会、産業界、医療界、教育界、自治体、国等のステークホルダーの方々とも共有したく、本ビジョンを通じて一層の繋がりを深めていく所存です。

福大ビジョン 2040

- 理念を実現するための道標として、2040年に向け福井大学の未来像を具現化するために策定
- 教職員とともに理念とビジョンに基づき、共感性を高め果敢に挑戦
- ステークホルダーの方々とも共有し、繋がりを一層深化

○ 2040年における福井大学の未来像

➤ 世界に通じる地方総合大学

- バーチャルキャンパス、オンライン教育による世界とのアクセス拡大
- 国内外の大学・機関との結びつきの強化
- 地域連携プラットフォームを通じた県内高等教育機関との協働・地域共創

➤ 社会から頼りにされる、活力ある大学

- 福井県の特徴も踏まえたひとづくり・ものづくり・ことづくり、地域医療と地域教育の拠点機能、産学官金連携活動
- 教職員・学生「ここで働くこと、学ぶことにプライドをもち、今を生き活きと過ごす」

○ 福井大学の未来像に向けたミッション

1. 教育

2. 研究

3. 国際化

4. 地域共創

5. SDGs

6. カーボンニュートラル

7. 経営マネジメント

学長メッセージ

変動の激しい時代に先進する福井大学を目指して

本学では、福井の地より、世界の様々な地域において、そこに集う人と共に、持続可能な社会の実現に向けて、新たな未来を拓くことを目指しており、本学の存在意義と在り方を表した「格致(かくち)によりて 人と社会の未来を拓(ひらく)」を理念として掲げております。また、本学の理念を実現するための道標として、2040年に向け、福井大学の未来像を具現化するため「福大ビジョン2040」を掲げております。これを重要な目標地点として、本学のあるべき姿を広く共有し、将来にわたり、これまで以上に、地域の知の拠点としての責務を果たせるよう、果敢に挑戦していきます。

さて、全世界で猛威をふるった新型コロナウイルス感染症も5類感染症に位置づけられ、授業も対面講義が原則となり、本学卒業生を対象としたホームカミングデーが4年ぶりに開催されるなど、キャンパス内にも少しずつコロナ禍以前の活気が戻りつつあります。その一方で、コロナ禍で発達したオンライン講義システムや、Web面接、リモート会議といった習慣も共存しており、これからの大学運営には、こうしたニューノーマル時代への適応が求められております。このような、かつてない大きな変化のなかで、本学では、この変化を契機に、更なる教育研究活動等の充実に向けて前進すべく、「福大ビジョン2040」に掲げる「世界に通じる地方総合大学」「社会から頼りにされる、活力ある大学」を目指していく所存です。

一方、国立大学法人を取り巻く現在の経営環境は、少子化、国による大学予算の削減、諸物価の高騰等により非常に厳しい状況が続いております。このような中、本学の各分野におけるミッションを実現するため、ひいては本学の未来像を実現するためには、今まで以上の運営の効率化、研究成果の向上を図っていく必要があります。

この「統合報告書2023」は、財務諸表等の分析を通して業務の効率的かつ効果的な運営に活用するとともに、本学と様々な形で関わり、またご支援頂いているステークホルダーとの共同利益を志向し、エンゲージメントの具体化に向け、本学の取組や財務状況へのご理解とご協力を深めて頂くことを目的として作成いたしました。

本報告書が、福井大学に対するご理解の一助となり、今後とも本学に対し、皆様からのさらなるご支援ご助言を賜りますよう、お願い申し上げます。

国立大学法人福井大学 学長

上田 厚典

Ueda Takanori

文京キャンパス

- 1949.5 福井大学発足
学芸学部、学芸学部附属小・中学校、工学部設置
- 1956.4 工学専攻科設置
- 1966.4 芸術学部を教育学部に改称
- 1993.4 大学院工学研究科博士後期課程設置、技術部発足
- 1999.4 教育学部を教育地域科学部に改組
遠赤外線開発研究センター設置
- 2002.4 アドミッションセンター設置
- 2003.10 旧福井大学と旧福井医科大学が統合
新福井大学が開学
- 2004.4 国立大学法人福井大学が発足、福井大学を設置
大学院工学研究科に独立専攻科設置
- 2007.11 産学官連携本部設置
- 2009.4 附属国際原子力工学研究所設置
- 2011.4 語学センター設置
- 2012.3 附属国際原子力工学研究所を敦賀市に移転
「敦賀キャンパス」開設
- 2016.4 教育地域科学部を教育学部に改称
工学部8学科を5学科に改組
国際地域学部国際地域学科設置
- 2019.4 繊維・マテリアル研究センター設置
地域創生推進本部設置
- 2020.4 国際地域マネジメント研究科(専門職大学院)設置
- 2021.4 総合教職開発本部設置、総合戦略室設置
- 2021.5 リカレント教育推進本部設置
- 2021.7 データ科学・AI教育研究センター設置
- 2022.4 社会共創機構設置、SDGs推進室設置
- 2023.4 カーボンニュートラル推進本部設置

沿革

昭和

松岡キャンパス

- 1978.10 福井医科大学設置
- 1980.4 福井医科大学開学
- 1983.4 医学部附属病院設置
- 1990.6 救急部設置
- 1994.5 高エネルギー医学研究センター設置
- 1999.4 リハビリテーション部設置
- 2006.4 臓器別診療科体制に移行(17診療科を25診療科に)
- 2007.4 治験・先進医療センター設置
- 2009.4 遠伝診療部、臨床教育研修センター設置
- 2012.4 子どものこころの発達研究センター設置
- 2012.8 福井県の総合周産期母子医療センターに指定
- 2014.9 医学部附属病院新病棟運用開始
- 2018.4 脊椎脊髓ユニット外来開設
- 2018.10 福井県アレルギー疾患医療拠点病院に指定
(健第953号) がんゲノム外来開設
- 2020.4 小児外科開設
- 2021.4 脳脊髄神経外科を脳神経外科に改称
- 2021.10 多用途型トリアージスペース設置
- 2022.4 高度生殖医療センター設置
- 2023.4 高度被ばく医療支援センター設置

平成

令和

巻頭特集



福井大学工学部創立100周年



※イメージ図

令和5年12月をもって、福井大学工学部は創立100周年を迎えました。

工学部では、この創立100周年にあたり、記念事業委員会を設け、卒業・修了生及び在籍生で組織する同窓会「福井大学工業会」の協力を得て、記念事業を実施するための準備を進めています。

その記念事業の一環として、創立100周年記念式典の開催や、創立100周年記念館の建設などが企画されています(画像はイメージ図)。

また、福井大学が産業界や地域社会と共に歩み、発展し続けるために、福井大学基金「福井大学工学部創立100周年記念事業募金」を設けており、寄附金の一部を活用して、工学系2号館の223L講義室の改修事業が行われました。

学生からもアイデアを募り、プロジェクトベースラーニング(PBL)やデータサイエンス教育といった昨今の大学教育に必須の講義に対応する機能を備えつつ、学会や公開講座、企業や卒業生の方々にもご利用いただけるスペースが完成しました。



学生オープンコンペ2023の開催 ～学生交流のための屋根のある広場～

キャンパス内に、学生が自由に集まって活動できるスペースが少ないことから、学生が多く集まる文京キャンパスの中央部に、福井大学基金を活用した「学生交流のための屋根のある広場」の設置を計画しています。

令和5年5月～8月に全学の学生を対象に、学生が自由に交流できる広場のデザイン案を募集し、「学生オープンコンペ2023」を開催しました。審査の結果、最優秀賞に輝いたデザイン作品をもとに、設計業者による本設計を行い、令和6年秋の広場完成を目指しています(画像はイメージ図)。

屋根のある広場では、食事や読書などの日常生活の憩いの場として、公開講座や各種イベントなどの発表の場として、学生のコミュニティや課外活動の拠点として、多目的な用途での活用が期待でき、学生同士が憩い、楽しめる場を提供します。



※イメージ図



(上) 学生が考案した作品の完成イメージ図

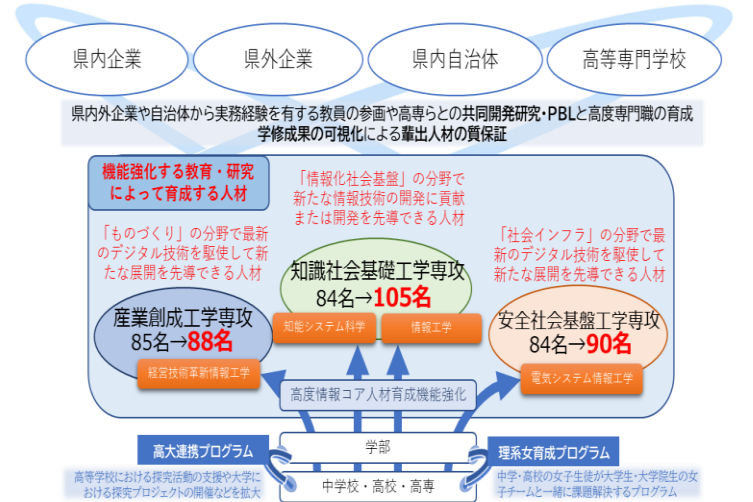
(左) 学生オープンコンペの発表風景

Informatics IMAGINEER (高度情報専門人材)の育成

福井大学大学院工学研究科では、AIやビッグデータ、IoT等を活用し、付加価値の創出や革新的な効率化により生産性向上等に寄与し、非連続的なイノベーションで社会課題を解決できる「Informatics IMAGINEER (高度情報専門人材)」を育成するため、博士前期課程の入学定員を253名から283名(30名増)に、収容定員506名を566名(60名増)に、それぞれ増員します(定員増は令和6～7年度の2か年で段階的に実施)。

これにより、本研究科全体のデジタルコンピテンシー等の底上げを図るほか、県内外企業等と連携して実務経験のある教員を受入れ、企業や自治体や高専等との多様な共同研究及びPBLを実施することで産業界のニーズに即応した教育を展開します。

加えて、地域の中学校・高校と連携した理系女育成プログラムや高大連携プログラムを構築し、学部へ接続することで、将来の高度情報専門人材の裾野を広げる取組も展開する計画です。



地域の中核大学等のインキュベーション・産学融合拠点の整備



※イメージ図

本学は、経済産業省による、令和4年度第2次補正予算「地域の中核大学等のインキュベーション・産学融合拠点の整備(Jイノプラ2)」の採択を受けました。

大学が地域の課題に対してアカデミアの知を供出し、スタートアップ創出や、企業とのオープンイノベーションを推進、地域でのネットワークのハブとして機能する拠点を形成するため、新たな建物の建設が進められています(画像はイメージ図)。

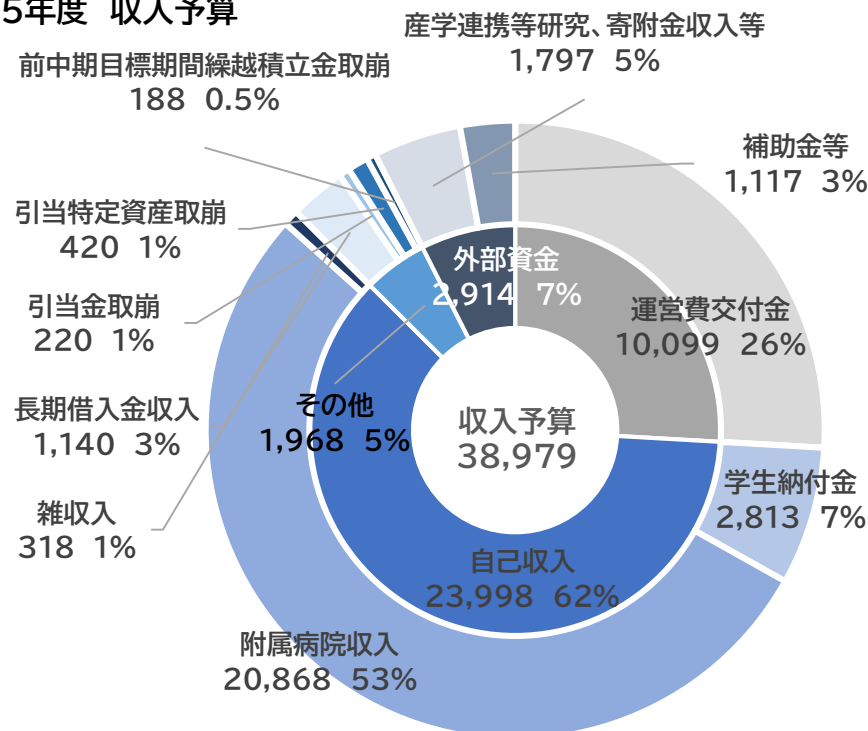
同施設では、特に、持続的な社会の実現に向け、石油産業に次いで環境負荷が高いとされている「繊維・アパレル産業」を、福井大学発の超臨界CO₂利用無水染色技術を起点とするサーキュラーエコノミーの実現により、産業構造のパラダイムシフトの誘発を経て、地域経済、産業を従来型から未来創造型へと転換することを目指します。地域産業との協働はもちろん、ヒトの行動変容を促すデザイン力も連動させる理文融合での取組みを推進します。





令和5年度 収入予算

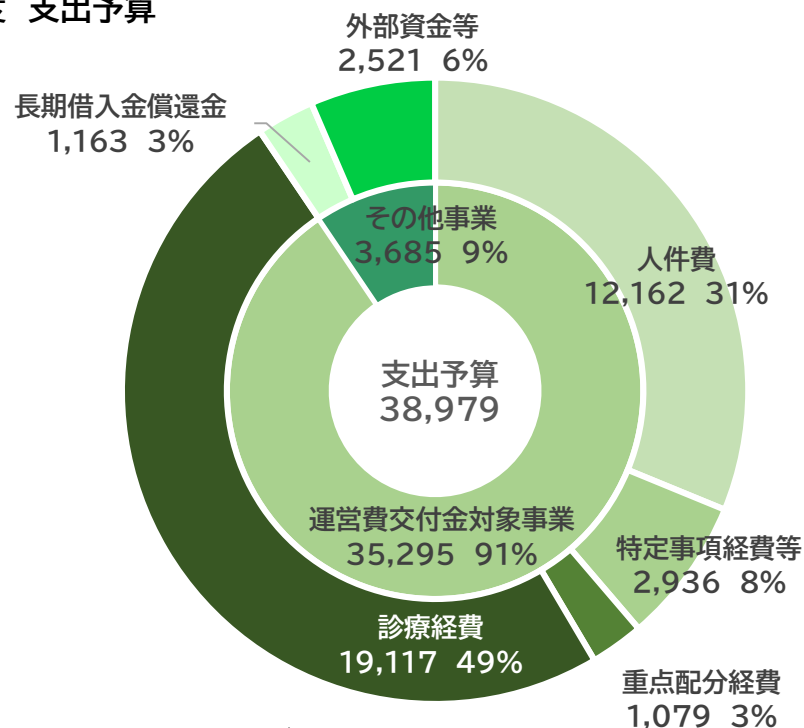
単位:百万円



注) 単位未満は四捨五入しており、計は必ずしも一致しない

令和5年度 支出予算

単位:百万円



注) 単位未満は四捨五入しており、計は必ずしも一致しない

キャンパス面積

文京 110,248㎡
松岡 270,230㎡



教職員数※1

2,183人

事務局職員 307人 教育学系教職員 132人 国際系教職員 26人
工学系教職員 159人 医学・病院系教職員 1,460人
センター等教職員 99人



学生数

学部生※1

4,022人

教育学部 439人 医学部 962人
工学部 2,356人 国際地域学部 265人



大学院生※1

981人

連合教職開発研究科 112人
医学系研究科 174人 工学研究科 682人
国際地域マネジメント研究科 13人



実績

進路決定率

98.4%

国立大学1位
16連覇達成

教育学部 98.8% 医学部 96.9%
工学部 98.7% 国際地域学部 93.3%

国家試験合格率 ※過去5年間の平均

医師 94.8% 保健師 100%
助産師 100% 看護師 99.6%



教員免許取得状況 ※2

R4年度 366件 R3年度 414件
R2年度 477件 R元年度 446件
H30年度 470件 H29年度 475件



海外派遣学生数 ※3

アジア 81人
北米 12人 欧州 6人



特許取得数

R4年度 36件(国外12件) R3年度 48件(国外15件)
R2年度 26件(国外4件) R元年度 19件(国外1件)
H30年度 12件(国外2件) H29年度 26件(国外4件)
H16~H28年度 262件(国外21件)



技術相談件数

R4年度 529件
R3年度 423件 R2年度 499件
R元年度 548件 H30年度 653件
H29年度 392件 H28年度 286件

コンシェルジュを置き、
相談のすそ野拡大!



※1 R5年5月1日現在

※2 幼稚園、小学校、中学校、高校の教員免許取得数の延べ数

※3 本学が留学を許可した者、あるいは本学の教育制度として海外派遣された者



超高齢化社会およびWith/Afterコロナ時代に対応する総合地域医療モデルの構築

<取組>

体力や心身の活力が低下し「健康」と「要介護」の中間の状態である「フレイル」を簡単に診断し、公民館単位での運動・栄養介入によってフレイル予防法を確立する取組です。

令和4年度は、勝山市において、医学部教職員と学生が住民のフレイル状態をチェックし、遠隔による運動教室(7月～12月:60回)、栄養教室、睡眠に関するお話し会などを実施しました。

<成果>

- ・ノンフレイル群(健康な人):35%→54%
- ・プレフレイル群(フレイル予備群)54%→42%
- ・フレイル群:12%→4%

<本取組により創出される社会的インパクト>

フレイル簡易診断法の有効性評価、介入前後におけるプレフレイル、フレイル高齢者の変化、介護保険における要介護者の推移を分析し、AI解析による将来予測、要介護者増加の抑制と介護保険費の抑制を目指します。



勝山市で実施した「フレ!フレ!元気アップ教室」

地域産学官金連携によるオープンイノベーション活動の推進

<取組>

産学官連携本部に社会実装研究センターを置き、大学発ベンチャー等を起点に地域産業界と共にグローバル市場への新しい価値の提供を進めました。

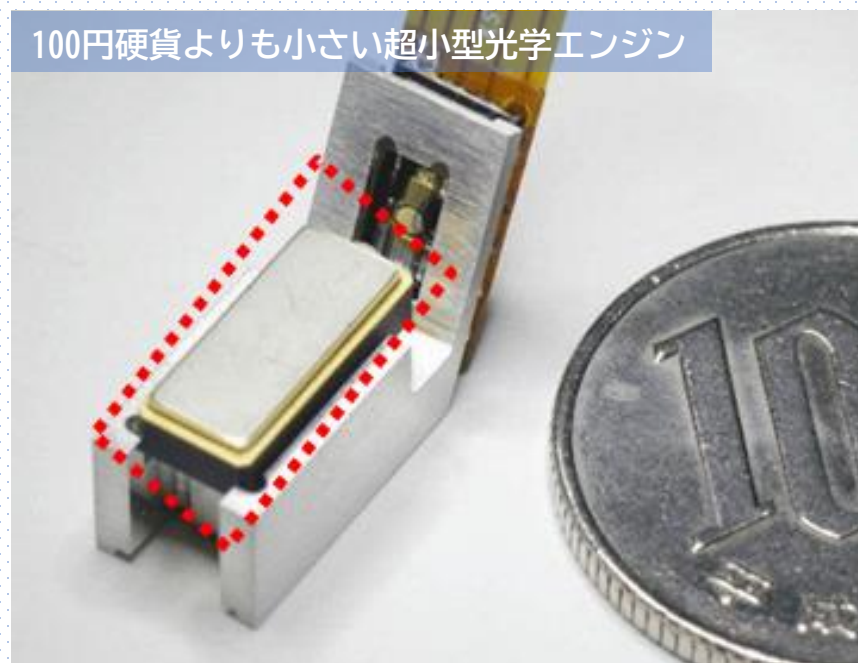
特に、超小型光学エンジンの研究・開発・成果展開については、事業化にコミットする地域企業との組織的な共同研究に基づき自立化を進めました。

<成果>

- ・超小型光学エンジンの量産技術確立
- ・超小型合波器サンプルワーク開始
- ・マラソン用スマートグラス試作
(県内企業・福井県工業技術センターと共同)

<本取組により創出される社会的インパクト>

網膜走査型スマートグラスの実用化による弱視者の社会参加、スマートフォン拡充市場形成、新しいエンターテインメントサービス提供等、及び地域眼鏡産業の活性化を目指します。



多職種連携教育による専門職養成と地域創生に資する社会共創教育の実現

高度に複雑化した社会の中で、課題解決を行っていく専門家には個々の専門性の高度化のみならず、他の専門家と連携した課題解決能力が必要となっています。こうした力を養成するため、令和4年4月に社会共創機構を創設し、構成部局の1つである地域創生推進本部の下に附属創生人材センター・附属嶺南地域共創センターを整備、地域の自治体や住民・産業・医療などと協働することで、多様な領域に実際に入り込んで調査・研究を実施し、さらには同じような課題を抱える海外諸国との国際共同研究も展開しています。

このような地域と大学が共に当事者としての視点を持ち、オープンな関係のもと課題に向き合い、イノベーションを創出していく「福井型地域振興・専門職育成教育プログラム」を構築し、展開を行いました。また、近年教育現場で多く取り組まれているPBLを大学の学びと結び付け、教員の研究に参画する共同研究型の「価値創造型PBL」として昇華させ、単なる提言やアイデアに終わらせない、社会実装に繋がる学びを実現していきます。

本事業では、令和9年度末までに嶺南地域における「課題解決に向けたプロジェクトを30件以上実施」「補助金等の外部資金受入額を第3期中期目標期間の受入総額の2倍以上(18,258千円)獲得」の目標を掲げ、令和4年度は、プロジェクト17件、受入総額7,456千円と、着実に進捗しております。



キャンパスから地域までのカーボンニュートラルを実現する持続的な研究マネジメント機能の構築

本学は2040年に向け脱炭素社会の実現に寄与するため、「カーボンニュートラル推進本部」を令和5年4月1日に設置しました。同本部は「研究推進・社会実装部」、「人材育成部」の2部門と附属ドラマチック・ウェザー・サイエンスセンターからなります。同センターでは福井の風土を生かしたエネルギーや地球環境に貢献する技術開発を加速させるため、「ナチュラル・リソース研究部」、「コネクテッド・エネルギー研究部」、「サステナブル・ライフ研究部」の3つの研究部が連携しています。

令和5年7月31日に開催した同本部のキックオフシンポジウムでは、北陸でカーボンニュートラル事業を進める産学官民から160名が参加しました。開会の挨拶で本学の上田孝典学長は「産学官でカーボンニュートラルに関する10件以上の社会実装に取り組むとともに、地域の発展に寄与する次世代の人材輩出に努める次第です。」と宣言しました。このキックオフシンポジウムを皮切りに、これまで本学で培った研究・技術リソースを全駆使し、心豊かな生活と脱炭素社会の実現を両輪とした、カーボンニュートラルのモデルを創出していきます。



高度被ばく医療支援センターの設置

福井大学医学部附属病院は、原子力規制委員会より、令和5年4月1日付で、原子力発電所が複数立地している福井県を含む北陸地域で初めて「高度被ばく医療支援センター」に指定されました。今後は地域の原子力災害拠点病院等では対応できない、高度専門的な支援を行うとともに、被ばく医療に対応できる人材を排出するために高度専門教育などを実施していきます。

2023年原子力災害対策事業費補助金(原子力災害等医療実効性確保事業)を活用し、毎年、原子力災害医療中核人材研修、甲状腺簡易測定研修を開催していきます。これらの研修は、原子力災害研修の専門的研修に位置づけられ、原子力災害医療中核人材研修では、原子力災害が起きた際に放射線による被ばくや放射性物質による汚染を含む被災者の受け入れ対応などについて高度・専門的な知識と技能を習得し、中心的役割を担える人材の養成を目的とし、甲状腺簡易測定研修では、甲状腺簡易測定を行う担当者の養成を目的としており、周辺住民等の甲状腺簡易測定を迅速に実施できる体制整備を整えるための教育研修です。今後原子力災害医療協力機関との連携体制を構築し、原子力災害医療に精通した人材の育成を行っていきます。



中核人材研修

「被ばく・汚染傷病者対応実習」



甲状腺簡易測定研修

講義の様子

脳卒中・心臓病等総合診療センターの設置

脳卒中・心臓病等に対する国の対策の基本的な方向性として、2020年に閣議決定された「循環器病対策推進基本計画」において、2040年までに「3年以上の健康寿命(元気な状態での寿命)を伸ばすこと」と「循環器病の死亡率を減らすこと」が目標と定められました。

これを受け、厚生労働省が令和4年度より実施している『脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業』において、福井県での令和5年度のモデル事業として、福井大学医学部附属病院が選定されました。

本センターでは、脳卒中や心臓病の患者さん・ご家族へのサポートとして、「脳卒中・心臓病相談窓口」を開設し、看護師、医療ソーシャルワーカー(MSW)が医療・保健・福祉等、多方面にわたる支援をワンストップで行っています。

これらの患者さん・ご家族の方に対するサポートのほか、地域の皆様への情報提供、普及啓発、また地域の医療機関との連携、研修会、勉強会の開催など、脳卒中や心臓病に関する包括的な支援を行なっています。



脳卒中・心臓病相談窓口

総合支援センター
Stroke and Cardiovascular Diseases Support Center

患者相談
窓口
Patient
Consultation



福井脳卒中県民講座

教育学部／
福井大学・奈良女子大学・
岐阜聖徳学園大学連合教職
開発研究科

新しい時代に生きる子どもたちの
未来をひらく教師をめざして



特色あるカリキュラム

探求ネットワーク事業(学部教育)

子どもたちと共に、人形劇、料理作り、まちかど調査隊、FFC(ふれあいフレンドクラブ:障がいのある子どもたちが対象)などの探求活動を展開しながら、子どもの主体的な学習活動を支え、組織学習力を養います。

ライフパートナー事業(学部教育)

学生が、不登校/発達障がい児童生徒の学校や家庭を訪問し「よき話し相手」として接し、交流を深め、児童生徒の自立を側面的に援助します。共に活動する中で互いに信頼関係が生まれ、子どもの「心の支え」として活動します。この事業には、子どものこころの発達研究センターも参加しています。

特色ある3大学による「連合教職大学院」(大学院教育)

本学を基幹校に、教員養成に優れた実績を持つ奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学が参加して、評価の高い学校拠点方式を軸とした3つのコースにより、若い世代の教員や学校で核となる教員、管理職を養成します。

◆ 令和4年度財務情報(単位:百万円) ※百万円未満は四捨五入しており、計は必ずしも一致しません。

区分	金額
教育経費	84
研究経費	33
受託事業費等	35
人件費	590
業務費用計	742

実績

「嶺南地域教育プログラム」

嶺南地域の次代を担う教員養成のための「4年間継続学生支援プログラム」で、嶺南地域の市町の協力の下、地域を知るための講義・演習および嶺南地域での学校体験、教育実習を行います。

令和4年度は嶺南地域卒の入学生(一期生)10名を迎え、また1年次科目「嶺南地域学A」では、嶺南地域市町の教育長や校長が登壇され、それぞれの市町における取り組みや特徴について講義があり、嶺南地域の教育事情や自然環境、社会、文化、歴史等に関し理解を深めました。

「次世代を担う理数系人材の育成」

本学教育学部を中心に、県内の教育機関や経済界などが連携して未来の科学者を育てる「ジュニアドクター育成塾」を平成30年度から開講しています。

令和4年度は第四期生の第二段階プログラム及び第五期生の第一段階プログラムを実施しました。本学部の教員を含む大学研究者等の支援を受けて、第一段階プログラムでは、修了生20名を「ジュニアマスターふくい」に、第二段階プログラムでは修了生9名が「ジュニアドクターふくい」に認定されました。

区分	金額
運営費交付金収益	970
学生納付金収益	333
受託事業等収益	35
寄附金収益	4
補助金等収益	3
雑益	6
業務収益計	1,350

区分	金額
建物	655
構築物	4
その他固定資産	18
流動資産	11
帰属資産	688



医学部／医学系研究科

愛と医術で人と社会を健やかに



特色あるカリキュラム

アウトカムとコンピテンシーからなるアウトカム基盤型教育を実践

医学科では、医学部理念を具現化するためのアウトカム(卒業時に身につけるべき学修成果)とコンピテンシー(修得すべき能力)を定め、世界水準の医学の知識と技能を修得し、地域社会や国際社会で活躍できる医師および医学研究者を育成しています。

革新的画像医学教育:高度な画像診断教育で医師の「診る」を鍛える

人体解剖画像、病理組織画像、CT、MR、PETなどの先進的臨床画像や分子イメージング画像を、臨床基礎科目および臨床実習の場で利用し、高度化・精緻化する画像診断を、十分に活用できる医師を養成しています。

看護教育:多様化する社会のニーズに応える専門的な看護力を育成

幅広い職業選択(看護師・保健師・助産師)ができる独自カリキュラムを実施しています。また、社会のニーズに応え、多職種連携の在宅医療を担う看護師教育の充実を目指し、医学科生とチーム医療を意識した「地域ケア実習」を実施しています。

◆ 令和4年度財務情報(単位:百万円) ※百万円未満は四捨五入しており、計は必ずしも一致しません。

区分	金額
教育経費	325
研究経費	438
受託研究費	65
共同研究費	17
受託事業費等	83
人件費	1,485
業務費用計	2,413

区分	金額
運営費交付金収益	1,056
学生納付金収益	658
受託研究収益	73
共同研究収益	24
受託事業等収益	87
補助金等収益	89
寄附金収益	433
施設費収益	120
雑益	60
その他の収益	42
業務収益計	2,641

実績

「ソーシャル・キャピタル(地域の絆による健康効果)による地域包括ケアシステムの展開」

社会参加や交流・つながりの機会(ソーシャル・キャピタル)は地域の支え合いと規範を生み、健康、経済、教育等さまざまな分野に恩恵をもたらすとされ地域の持続可能性が向上すると考えられています。医学部では、高浜町において、住民・行政・専門職が参加し、オンライン・ソーシャル・キャピタルを醸成するイベント「健高カフェ」12回、「健康のまちづくりアカデミー」8名の修了生の輩出、「健康のまちづくりサミット」を開催し、「地域主体の健康のまちづくり」を推進しています。

「福井大学医学部応援ふるさと納税」

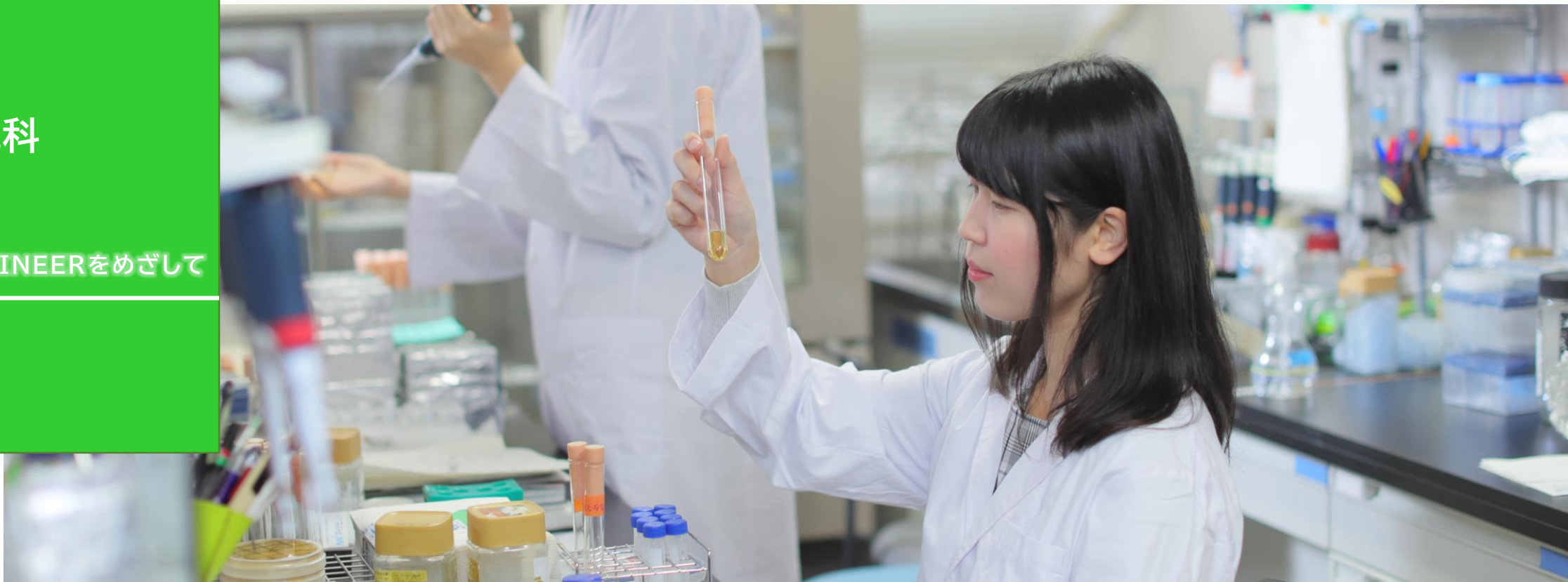
医学部長の発案で令和3年5月から開始したふるさと納税は、医学部の教育・研究活動の支援や魅力ある医学部・松岡キャンパス作りのための環境整備等に活用し、これまでに学生の修学環境の整備や駐車場の整備、教員の教育・研究経費の補助を行っています。

区分	金額
建物	2,453
構築物	149
その他固定資産	325
流動資産	105
帰属資産	3,033



工学部／工学研究科

夢を形にする技術者、IMAGINEERをめざして



特色あるカリキュラム

Global Imagineerの育成

本学では、その想いを世界の人々と拡張するGlobal Imagineerへの挑戦を平成24年度より開始しています。英語教育も、コミュニケーションツールを得ることのみならず、思考の枠組みを拡張することを目指して推進しています。

自己変容型知性を育む創成教育への挑戦

教育がなすべきことは、どんな状況になってもしなやかに生き延びることのできる「知性」を育むこと。そうした知性を育む方法論は確立していませんが、私たちは学科・学年の枠を越えた主体的グループ活動を分野横断型の教員組織で支援する創成教育を通じて、新たな能力育成に挑戦しています。

産業現場への即応、そして次世代産業の創成

産業界からの実践現場の提供とエキスパートの教育参加による自律型産業人材の育成プログラム(実践道場)や次世代組織・ファイバー工学分野の人材育成といった多様なプログラム等を通じて、高度専門技術者の育成に取り組んでいます。

◆ 令和4年度財務情報(単位:百万円) ※百万円未満は四捨五入しており、計は必ずしも一致しません。工学部・工学研究科は、主に学納金収入を運営資金としていることから、運営費交付金収益がマイナスとなっています。

区分	金額
教育経費	323
研究経費	318
受託研究費	93
共同研究費	98
受託事業費等	10
人件費	1,833
業務費用計	2,676

区分	金額
運営費交付金収益	-141
学生納付金収益	1,856
受託研究収益	108
共同研究収益	116
受託事業等収益	11
補助金等収益	32
寄附金収益	138
施設費収益	60
雑役	37
業務収益計	2,217

実績

「新たな英語教育プログラムの導入」

令和3年度より工学部2年生向け共通教育科目である「英語V」及び「英語VI」においてクラウド型e-learningシステムを全面導入し、同年4月から運用を開始しました。時間と場所を問わず繰り返し学習できることにより、学生の英語技能の向上に役立っています。今後も授業担当教員と教務課の協働により、学期途中においても改善策の検討や科目運用の見直しを行い、同プログラムを継続して実施していきます。

「県の補助金を活用したPBL教育の実施」

令和2年度より福井県の補助金である「未来協働プラットフォームふくい推進事業(大学等魅力アップ支援分)」の支援(総額1,500千円)を得ており、引き続き令和4年度においても、学内予算1,625千円と合わせて博士前期課程の学生を対象としたプロジェクト型学習(PBL)を実施しました。コロナ禍の中でも、例年に近い15件のプロジェクト(全日本製造業コマ大戦への参加を通じた精密加工スペシャリスト育成プロジェクト、「福井の自然をしっかりと体感し、福井の活性化に繋げよう」プロジェクト、ディープラーニングの基礎理論習得のための実践的学習、プロジェクトマップの基礎と音楽映像作品創造プロジェクト、発達障害や学習障害を抱える児童生徒へのICTによる支援技術の開拓等)が開講され、66名の学生が受講しました。これらを通じ、課題認識力、問題解決力、行動力等の習得が促され、実践能力を持つ人材育成に貢献しました。

区分	金額
建物	1,283
構築物	13
その他固定資産	211
流動資産	48
帰属資産	1,556



国際地域学部／ 国際地域マネジメント研究科

未来志向で、地域に織り込む世界へのまなざし



特色あるカリキュラム

国際地域学部の特色

世界と地域を繋ぐ徹底した英語教育と異文化理解教育

グローバル社会で活躍できる人材を育成するために、多様な学習と経験の機会を提供しています。

地域の企業・自治体等と連携した地域密着型課題探求プロジェクト

福井の企業や自治体等の現状・課題を調査し、問題解決の一端を担います。意思決定や批判的な思考を育むとともに、リアルな現場としての社会を理解し、それに適応する能力を身につけます。

国際地域マネジメント研究科の特色

企業や自治体の従業員・職員が働きながら学ぶために設置された北陸初の経営系専門職大学院(令和2年度開設)。授業は火曜・木曜の夜間(オンライン)と土曜の午前・午後(対面が基本(オンラインも可))に実施しています。国際+地域+マネジメントの3要素を軸とするカリキュラムで国際的な視野をもつマネジメント・リーダーを育成します。

◆ 令和4年度財務情報(単位:百万円) ※百万円未満は四捨五入しており、計は必ずしも一致しません。

区分	金額
教育経費	34
研究経費	8
共同研究費	1
受託事業費等	6
人件費	350
業務費用計	398

区分	金額
運営費交付金収益	118
学生納付金収益	164
共同研究収益	1
受託事業費等収益	6
雑益	3
業務収益計	292

実績

国際地域学部:「異文化理解教育の実施」と「課題探求プロジェクトによる地域課題についての学びの実施」

令和4年度は、1大学と大学間協定の締結、8大学と大学間協定の更新、1大学と部局間協定の更新を行いました。コロナ禍においてやむを得ず交換留学が中止・辞退となった学生を対象に、海外大学が提供するオンライン授業(プログラム)を受講させることで、教育の機会を提供しました。また、令和4年度秋学期では、交換留学を復活させ、米国、韓国、ベトナム、イタリア、ポーランド、ルーマニアの6カ国に13名の学生を派遣しました。

課題探求プロジェクトでは、2年生は、「グローバル企業の地域定着」「地場産業の商品開発と販路拡大」「美浜賑わい創出プロジェクト」などについて活動しました。また、3年生は、「ショート動画を使った地域プロモーション」「プロジェクト実践のポイントを探る【まちづくり班】」などについて活動しました。

国際地域マネジメント研究科:「海外実地研修およびプレ海外研修を実施」

令和4年度は、フランス・パリのUNESCO本部をはじめ、イギリス、アメリカ、シンガポール、タイの研修先にて、2年次生8名が海外実地研修を実施しました。また、1年次生5名を対象とし、ベトナム・ホーチミンにて、プレ海外研修を実施し、日系企業の現地事業の視察や業務内容に関するヒアリングを行いました。

区分	金額
建物	1
流動資産	2
帰属資産	3



医学部附属病院

新しく優しい医療をあなたのもとへ



主な取組

県内で唯一の特定機能病院として高度医療の提供と臨床研究の推進を担う

「地域医療の最後の砦」として、高度医療の提供、新規医療技術の開発・評価を行っています。

急性心筋梗塞発症患者の救命率の向上に資する「クラウド型救急医療連携システム」の開発

福井県内の5消防本部12救急隊、福井県防災ヘリコプターおよび急性心筋梗塞救急搬送指定医療機関の5病院に導入され、へき地の救急要請現場から心電図の送信が可能になったことにより、急性心筋梗塞発症患者の救命率の向上を実現しています。

大学附属病院初の北米型ER救急体制

一次救急から三次救急まで、全ての患者のニーズに応じた救急医療を365日24時間体制で実践しています。

◆ 令和4年度財務情報(単位:百万円) ※百万円未満は四捨五入しており、計は必ずしも一致しません。

区分	金額
教育経費	32
研究経費	87
診療経費	13,700
受託研究費	123
共同研究費	6
受託事業費等	134
人件費	9,475
一般管理費	59
財務費用	55
業務費用計	23,672

区分	金額
運営費交付金収益	1,898
附属病院収益	20,344
受託研究収益	148
共同研究収益	7
受託事業等収益	137
補助金等収益	1,041
寄附金収益	263
雑益	54
業務収益計	23,891

実績

「COVID-19への対応と高度先進医療提供の両立」

県からの協力要請に応じて、年間を通じて県の入院コーディネートセンターに医師、看護師、コメディカル等を派遣し、患者搬送トリアージの指揮をとり、県内COVID-19患者の円滑な入退院を支援しました。さらに、令和5年2月22日までは、一般病棟の一つ(48床)をCOVID-19専用病棟に転用した33床の中軽症受入等病床に加え、ICUに3床の重症受入病床を確保し、また、令和5年2月23日以降は、新たに設置した新型コロナウイルス感染症専用病床8床を活用しながら、緊急性の高い治療を優先する等、特定機能病院として本院が本来担うべき診療を保持し、令和5年3月までに258名の陽性患者を受け入れました。

「高度生殖医療センターの開設」

近隣他府県と比べて不妊治療が脆弱であった福井県において、県内で高度な生殖医療を提供できる拠点を整備するため、高度生殖医療センターを開設しました。最先端の不妊治療に対応できる高度な治療や、不妊治療から出産までを一貫してサポートする体制構築等を行い、福井県内の10医療機関と連携して県内完結型の不妊治療を実現しています。

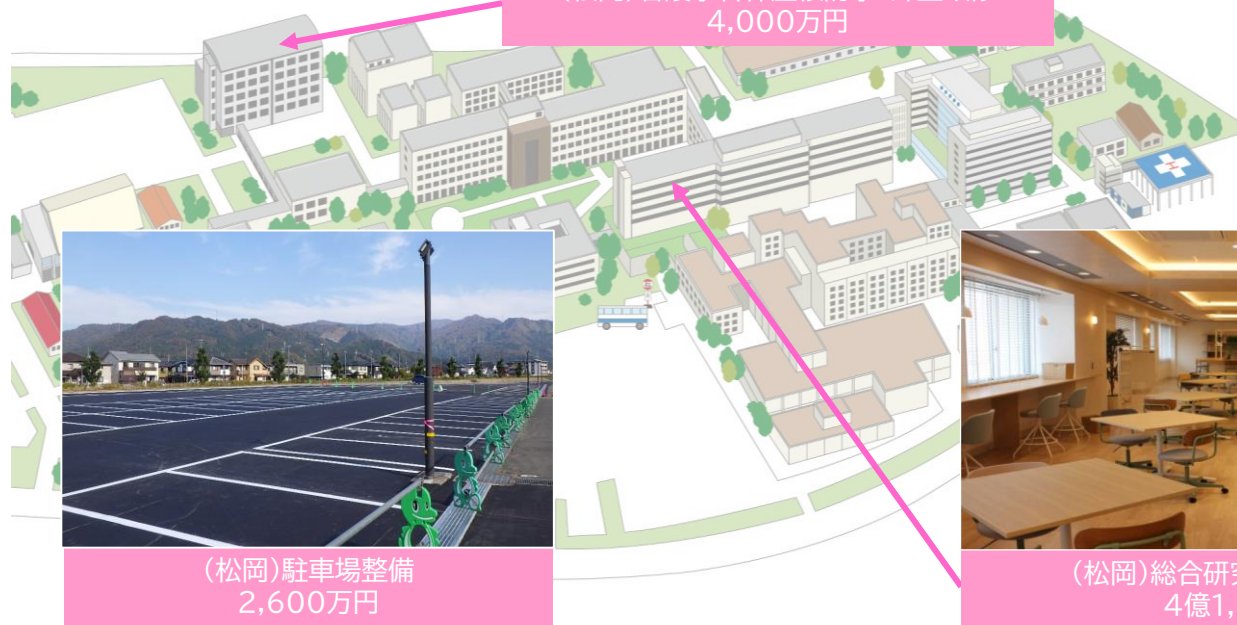
区分	金額
土地	7,728
建物	13,004
構築物	344
その他固定資産	2,870
流動資産	3,779
帰属資産	27,725



松岡キャンパス



(松岡)看護学科棟屋根防水・外壁改修
4,000万円



(松岡)駐車場整備
2,600万円

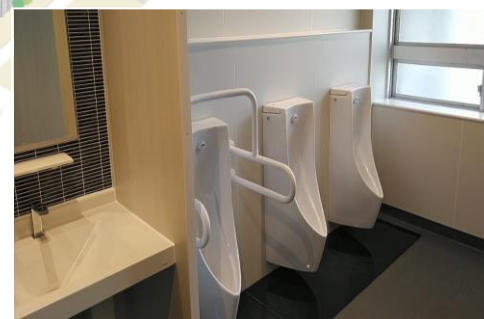


(松岡)総合研究棟(医学系)改修
4億1,600万円

文京キャンパス



(文京)工学系2号館講義室改修
1億600万円



(文京)工学系1号館トイレ改修
3,100万円

設備整備

安全エネルギー材料ベンチマークシステム 1億3,100万円

令和4年度概算要求の基盤的設備等整備にて、安全エネルギー材料ベンチマークシステムが整備されました。これにより、試料を超精密研磨し、ナノスケールの形態観察や化学結合状態の分析を行うことができました。



病理総合診断システム 9,800万円

病理部に最新の病理総合診断システムを導入しました。最新の検査機器に更新したことで、スムーズな標本作成や迅速かつクオリティーの高い病理診断が可能になりました。



(二の宮)附属学校後期課程校舎改修
4億7,300万円

ガバナンス体制

本学では、国立大学法人法に基づき、国立大学法人の重要事項を審議する機関として、役員会、経営協議会、教育研究評議会を設置しているほか、これら法定会議に附議する事案の調整を行うため、全学運営委員会を設置しています。

役員会は、国立大学法人法第11条第3項に定める重要な事項を審議する機関であり、学長、理事6名の7名で構成されています。

また、学長は、国立大学法人法に基づく学長選考・監察会議の選考を経て、法人の申出に基づいて文部科学大臣によって任命されます。なお、学長選考・監察会議の委員は、経営協議会構成員から5名と教育研究評議会構成員から5名の10名で構成されています。

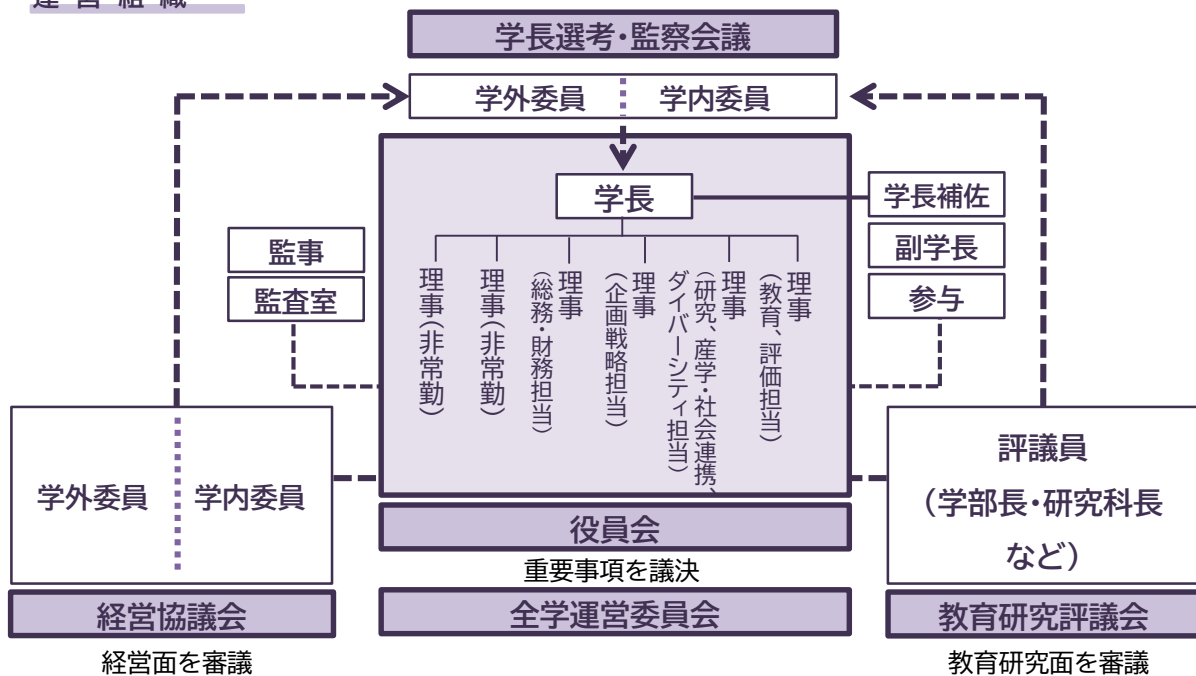
経営協議会は、国立大学法人法第20条第5項に定める経営に関する重要な事項を審議する機関であり、学長、理事4名、副学長3名及び学外の有識者9名の17名で構成されています。

教育研究評議会は、国立大学法人法第21条第4項に定める教育研究に関する重要な事項を審議する機関で、学長、理事4名、副学長3名、各学部長4名、研究科長2名、部門の教員3名、学部の教員4名及び学長が指名する者5名の26名で構成されています。

大学経営の中軸をなす学内資源配分については、全学運営委員会にて要求事業のヒアリングや部局間の調整を行い、戦略的な資源配分について審議が行われます。その後、経営協議会及び役員会の議を経て、予算編成方針・予算案が決定されており、大学としてのガバナンス体制が実現されています。

また強靱なガバナンス体制を構築するため、本学は、国立大学法人ガバナンス・コードを基本原則として、教育・研究・社会貢献機能を最大限発揮するための経営機能を高め、併せて、経営の透明性を向上させ社会への説明責任を果たし、社会の皆様からの信頼と理解を得続けられるよう努めています。

運営組織



監事監査

監事は、業務の適正かつ効率的な運営を確保すると共に、会計経理の適正を期することを目的に監査を実施しています。監査の方法は、内部監査部門や会計監査人と連携し、毎年度の監査計画に監査事項を設定して実施するほか、役員会・教育研究評議会・経営協議会やその他重要な会議に出席し、ガバナンス体制や学長及び理事の職務の執行が法令などに適合することを確認しています。

令和4年度の監査実績

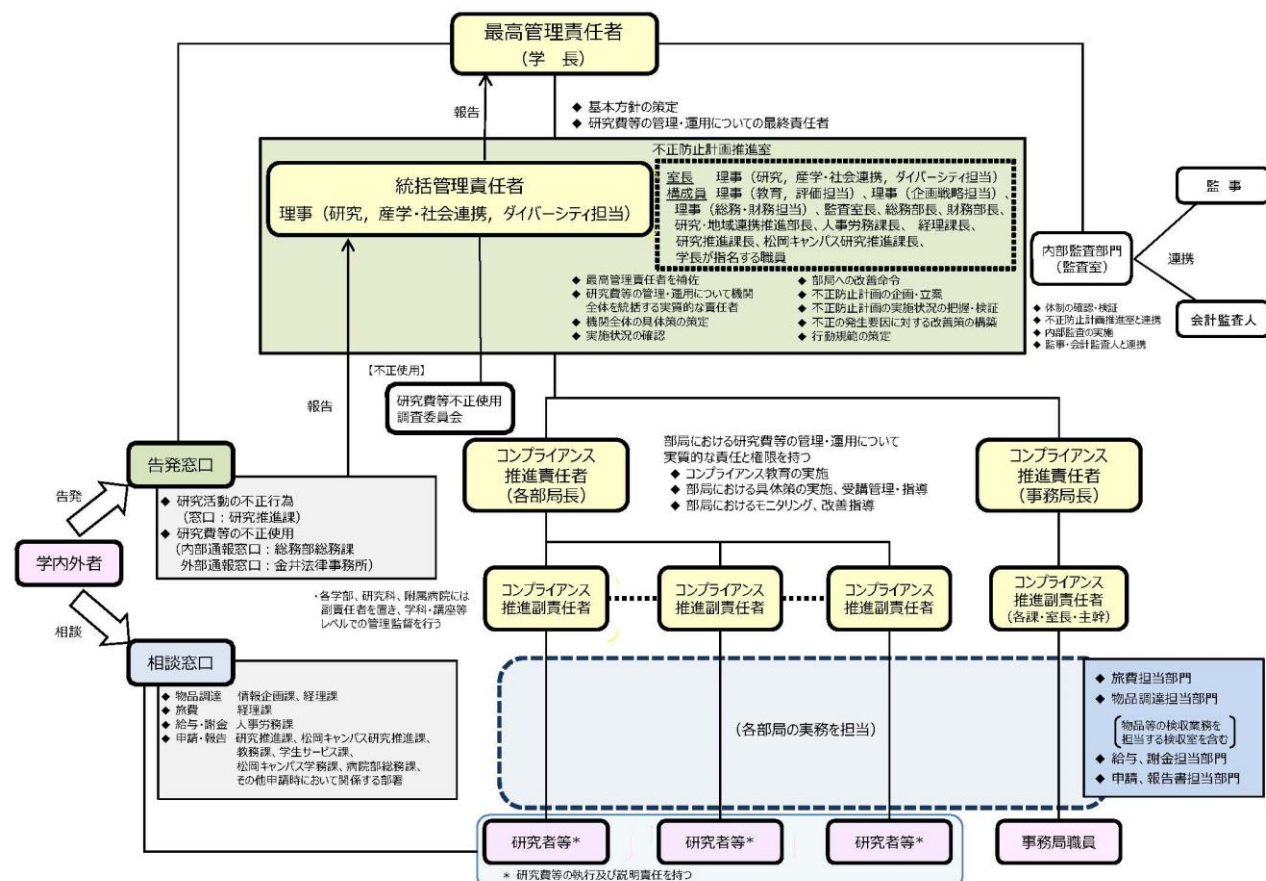
- 内部統制の整備及び運用状況(コンプライアンス、リスク管理含む)
- 中期計画の実施状況及び進捗管理
- 国立大学法人ガバナンスコードの適合状況等の報告に関する取組状況
- 予算の執行及び内容の把握ならびに決算の状況
- 医学部附属病院の運営に関する事項
- 人事制度見直しに関する取組ならびに運用状況
- これまでの監査指摘・提言事項のフォローアップ

研究費等の管理運営体制

本学では、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」(平成19年2月15日文部科学大臣決定)を踏まえて、本学における公的研究費及びその他本学の資金(以下「研究費等」という。)の適正な運営・管理のために、以下のとおり不正防止対策等に取り組んでいます。

1. 機関内の責任体系の明確化
2. 適正な運営・管理の基盤となる環境の整備
3. 不正を発生させる要因の把握と不正防止計画の策定及び実施
4. 研究費の適正な運営・管理活動
5. 情報発信・共有化の推進
6. モニタリングの在り方

なお、従前より公的研究費等の事務処理手続き及び使用ルールについては、統一的な運用を図るためにマニュアル化等を行っているほか、学内外関係者から相談や問い合わせを受け付ける相談窓口も設置しています。



ご支援・ご協力のお願い

福井大学基金は、福井大学が目指す「世界に通じる地方総合大学」と「社会から頼りにされる、活力ある大学」の実現のために活用しております。

これまでに、総額7億536万8,580円のご寄附をいただき、延べ1,677人の学生さんの修学支援に有効に活用させて頂いております。(令和5年12月末現在)

用途

<p>一般基金 福井大学全体または学部への支援</p> <p>学生修学支援事業 経済的な理由により修学が困難な学生さんの修学を支援します。</p> <p>学生・若手研究者研究支援事業 学生又は不安定な雇用状態にある研究者の研究等を支援します。</p> <p>卓越高度専門職業人育成・研究支援事業 グローバル社会で活躍できる優れた高度専門職業人育成のための修学支援、強みや地域特性を踏まえたイノベーションの創出につながる研究活動を支援します。</p> <p>グローバル化・地域振興支援事業 グローバル化対応や地域振興のための学生・教職員の活動を支援します。</p>	<p>特定基金 特定の部局やプロジェクトへの支援</p> <p>附属病院の応援 患者さん一人ひとりに安全で質の高い医療を提供し、福井県内唯一の特定機能病院として県民のご期待に応えます。</p> <p>教職大学院の応援 次世代の教育を担う福井大学教職大学院の院生の修学を支援します。</p> <p>附属学園の応援 教育学部附属学園の教育・研究の活性化を図ります。</p> <p>周年事業 創立記念事業等への支援</p> <p>工学部創立100周年記念事業及び工学系の教育・研究の応援 令和5年12月に創立100周年を迎える工学部の記念事業並びに工学系の優れた人材の育成と研究の推進に活用します。</p>
--	--

活用状況は
こちらから

Web

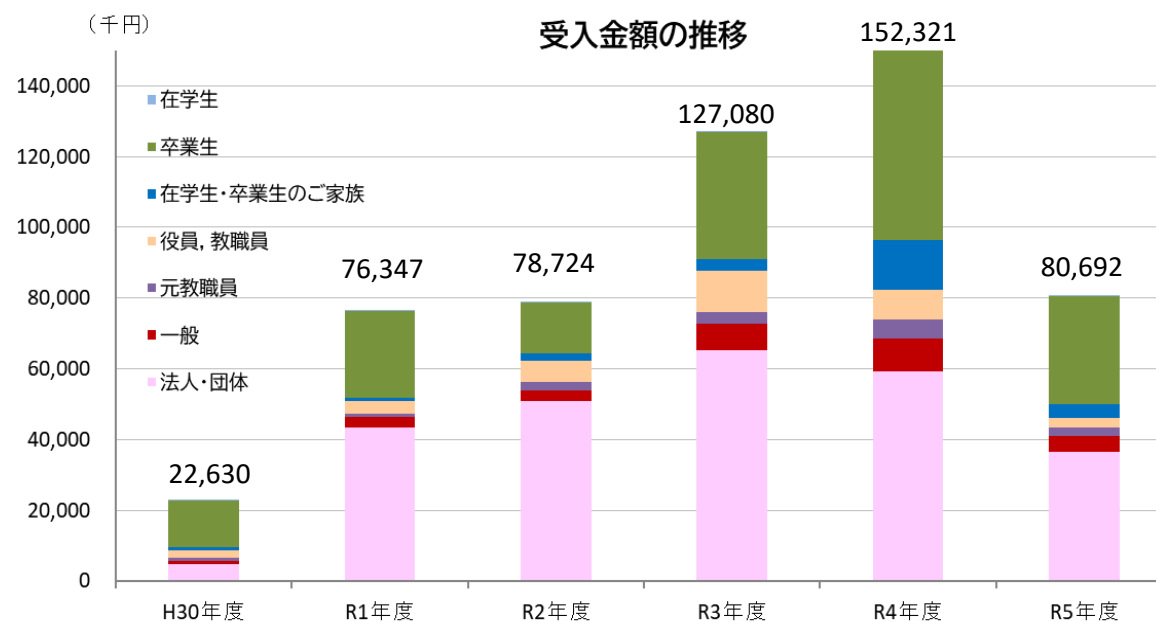
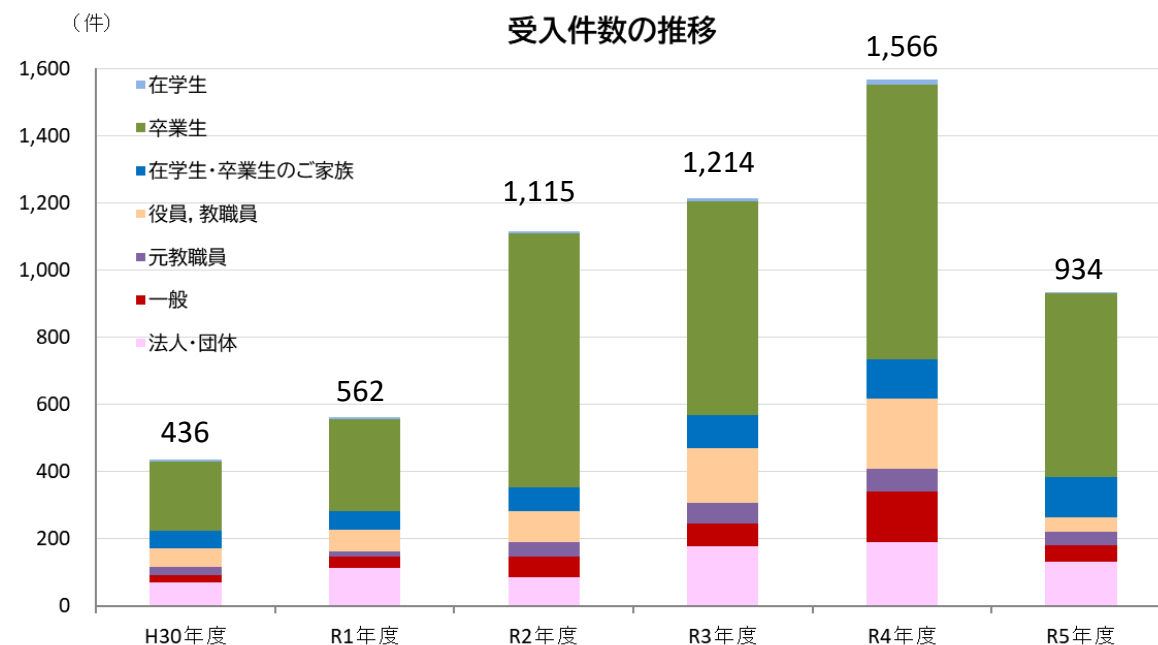
福井大学基金(羽ばたけ基金)[®]

<https://www.u-fukui.ac.jp/kikin/lk08/lk10/>



福井大学基金の受入状況

令和5年12月末現在



貸借対照表(B/S)

貸借対照表とは、財政状況を明らかにするために、決算日におけるすべての資産(土地、建物、備品、現金及び預金等)、負債(運営費交付金債務、未払金等)および純資産(政府出資金、資本剰余金等)を記載し、報告するものです。

前年度との比較

(単位:百万円)

資産の部	令和3年度	令和4年度	増減
固定資産	76,667	76,656	▲11
土地	42,278	42,278	0
建物	24,881	24,327	▲554 *1
構築物	1,090	1,105	15
工具器具備品	4,644	4,105	▲538 *2
図書	2,723	2,707	▲17
建設仮勘定	31	234	203
投資有価証券	800	1,100	300
ソフトウェア 他	220	260	40
減価償却引当特定資産	-	540	540
流動資産	14,677	15,152	474
現金及び預金	10,375	11,084	709 *3
未収入金	4,122	3,854	▲267
医薬品及び診療材料	91	136	46
たな卸資産 他	90	77	▲13
資産合計	91,344	91,808	463

負債の部	令和3年度	令和4年度	増減
固定負債	22,994	16,091	▲6,903
資産見返負債	7,092	-	▲7,092 *4
長期繰延補助金等	-	1,454	1,454 *5
借入金	14,234	13,207	▲1,027 *6
長期リース債務等	1,020	692	▲327
引当金 他	648	739	91
流動負債	10,880	12,006	1,125
運営費交付金債務	0	402	402
寄附金債務	4,023	4,245	222
未払金	3,732	4,180	447
借入金返済 他	3,125	3,178	53
負債合計	33,875	28,097	▲5,778
純資産の部	令和3年度	令和4年度	増減
資本金	50,666	50,666	0
資本剰余金	2,633	2,236	▲397
利益剰余金	4,171	10,809	6,638
純資産合計	57,470	63,711	6,241
負債・純資産合計	91,344	91,808	463

注)百万円未満は四捨五入しており、計は必ずしも一致しません。

資産に関する特記事項

- *1 建物 対前年比▲554百万円: 減価償却による減、減損損失(宿舍)による減
- *2 工具器具備品 対前年比▲538百万円: 大型機器の除却による減
- *3 現金及び預金 対前年比+709百万円: 病院収入及び補助金収入による増

負債に関する特記事項

- *4 資産見返 対前年比▲7,092百万円: 会計基準改訂による「資産見返負債」廃止に伴う減
- *5 長期繰延補助金等 対前年比+1,454百万円: 会計基準改訂による新規勘定(補助金等)に伴う増
- *6 借入金 対前年比▲1,027百万円: 借入金返済による減

第1期中期目標期間から現在までの推移

令和4年度会計基準改訂による勘定科目名の変更。令和3年度までの名称は以下のとおり。

- *1 損益外減価償却累計額
- *2 損益外減損損失累計額
- *3 損益外利息費用累計額

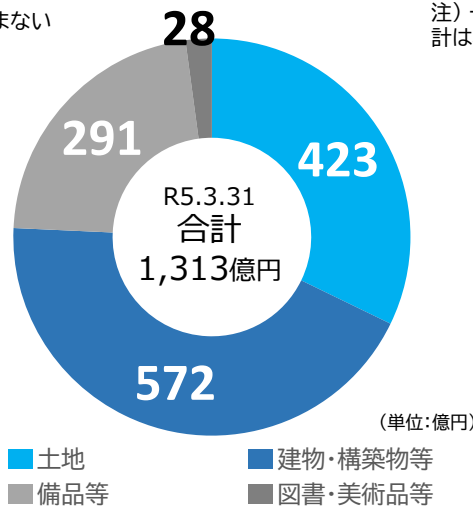
(単位:百万円,百万円未満四捨五入)

中期目標期間	第1期 平成16年度	第2期 平成22年度	第3期 平成28年度	令和3年度	令和4年度	増減 (R4対前年度比)
I 固定資産	66,161	69,022	82,634	76,667	76,656	▲11
土地	42,356	42,278	42,278	42,278	42,278	0
建物	19,813	27,641	46,429	53,336	54,676	1,340
減価償却累計額	▲1,882	▲9,886	▲18,482	▲28,330	▲30,217	1,886
減損損失累計額	-	-	-	▲124	▲132	8
構築物	797	997	1,365	2,364	2,486	122
減価償却累計額	▲203	▲688	▲919	▲1,274	▲1,381	107
工具器具備品	3,761	16,591	26,003	29,143	29,047	▲96
減価償却累計額	▲828	▲10,777	▲17,827	▲24,500	▲24,942	443
図書	2,210	2,455	2,615	2,723	2,707	▲17
美術品・收藏品	49	49	49	49	50	0
建設仮勘定	2	259	991	31	234	203
特許権	-	6	14	36	38	1
ソフトウェア	62	19	85	55	102	47
投資有価証券	-	-	-	800	1,100	300
減価償却引当特定資産	-	-	-	-	540	540
その他	25	79	31	80	70	▲9
II 流動資産	7,281	11,404	13,557	14,677	15,152	474
現金及び預金	5,137	8,603	10,327	10,375	11,084	709
未収学生納付金収入	26	35	39	49	47	▲2
未収附属病院収入	1,745	2,344	2,882	3,320	3,520	200
徴収不能引当金	▲95	▲57	▲47	▲32	▲36	3
その他未収入金	18	278	195	785	323	▲462
たな卸資産	24	24	20	29	26	▲4
医薬品及び診療材料	424	126	92	91	136	46
その他	2	50	49	61	51	▲10
資産合計	73,442	80,426	96,191	91,344	91,808	463
I 固定負債	13,396	11,892	25,525	22,994	16,091	▲6,903
資産見返負債	4,188	6,192	8,333	7,092	-	▲7,092
長期繰延補助金等	-	-	-	-	1,454	1,454
大学改革支援・学位授与機構 債務負担金	6,962	2,634	645	19	2	▲17
長期借入金	2,203	2,822	14,862	14,215	13,205	▲1,011
長期未払金	-	-	387	2	-	▲2
その他	42	244	1,297	1,667	1,430	▲216
II 流動負債	7,251	9,448	11,684	10,880	12,006	1,125
運営費交付金債務	129	353	169	0	402	402
寄附金債務	1,951	3,283	3,938	4,023	4,245	222
前受受託研究費等	52	113	152	363	400	37
一年以内返済予定大学改革 支援・学位授与機構債務負担金	1,323	426	274	40	17	▲24
一年以内返済予定長期借入金	892	271	568	962	1,108	147
未払金	2,753	4,087	5,297	3,732	4,180	447
その他	150	918	1,287	1,760	1,653	▲107
負債合計	20,647	21,339	37,209	33,875	28,097	▲5,778
I 資本金	50,705	50,666	50,666	50,666	50,666	0
政府出資金	50,705	50,666	50,666	50,666	50,666	0
II 資本剰余金	▲106	2,483	3,448	2,633	2,236	▲397
資本剰余金	1,562	10,552	16,697	19,931	21,273	1,342
減価償却相当累計額 *1	▲1,668	▲8,067	▲13,246	▲17,173	▲17,981	808
減損損失相当累計額 *2	-	0	0	▲122	▲130	7
利息費用相当累計額 *3	-	▲2	▲3	▲3	▲3	0
除売却差額相当累計額	-	-	-	-	▲924	▲924
III 利益剰余金	2,197	5,938	4,868	4,171	10,809	6,638
前中期目標期間繰越積立金	-	4,819	5,347	3,610	3,817	207
教育研究環境向上積立金	-	-	-	-	-	-
積立金	-	-	-	-	-	-
当期末処分利益	2,197	1,119	-	561	6,992	6,431
当期末処理損失	-	-	▲479	-	-	-
純資産合計	52,796	59,087	58,982	57,470	63,711	6,241
負債・純資産合計	73,442	80,426	96,191	91,344	91,808	463

施設等取得額・老朽化比率の年度別推移

主要な有形固定資産の内訳

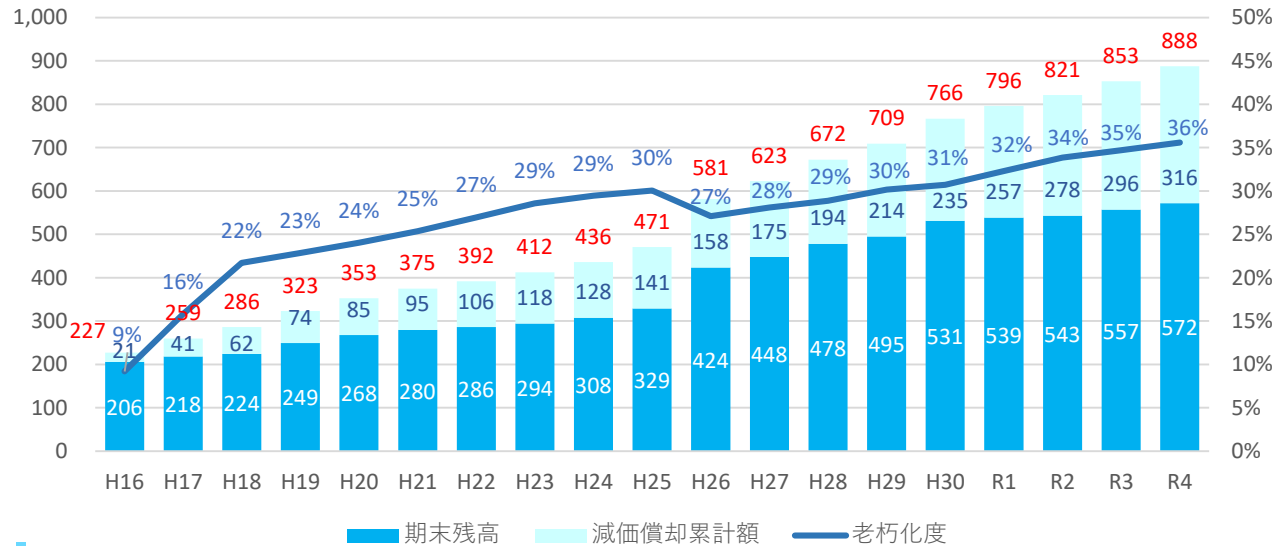
※減価償却累計額、減損損失累計額は含まない



注)一億円未満は四捨五入しており、計は必ずしも一致しません。

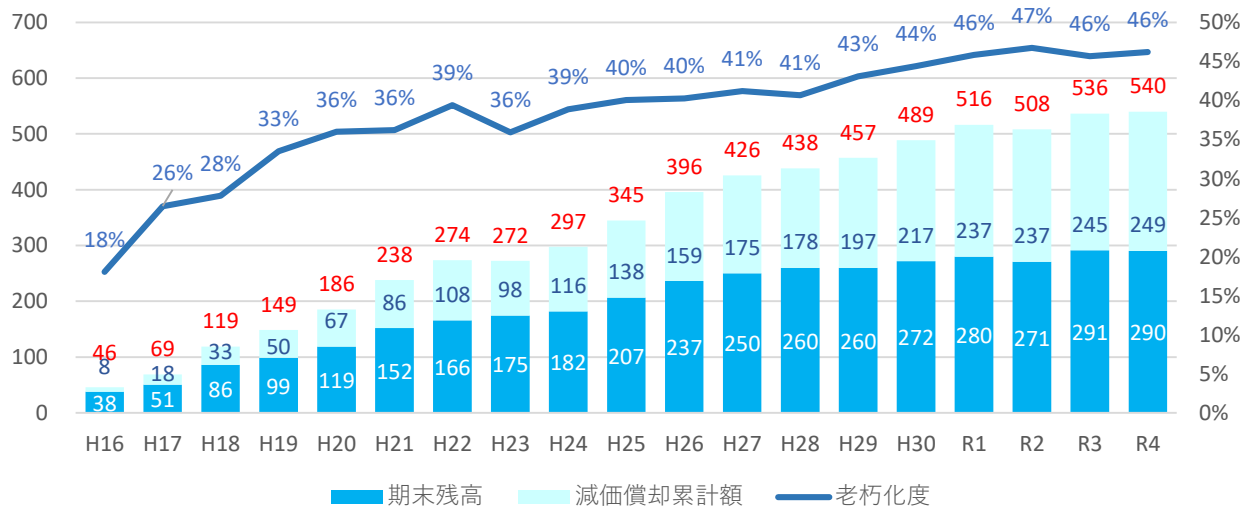
建物等

(単位:億円)



備品

(単位:億円)



損益計算書(P/L)

損益計算書とは、運営状況を明らかにするために、一事業年度におけるすべての費用(教育経費、研究経費等)と収益(運営費交付金収益、学生納付金収益等)とを記載し、報告するものです。

前年度との比較

(単位:百万円)

注)百万円未満は四捨五入しており、計は必ずしも一致しません。

経常費用	令和3年度	令和4年度	増減
教育研究経費	2,788	2,706	▲ 82
診療経費	13,490	13,700	210
教育研究支援経費	449	453	5
受託研究費等	913	1,204	291
人件費	17,270	17,643	373
一般管理費	640	676	36
財務費用	73	58	▲ 15
経常費用合計	35,623	36,440	817

- 経常費用に関する特記事項
- *1 診療経費 対前年比+210百万円: 手術件数の増加に伴う診療経費の増及び電気料高騰による増
 - *2 受託研究費等 対前年比+291百万円: 受入額の増に伴う支出の増
 - *3 人件費 対前年比+373百万円: 退職手当等の増、教職員の増

経常収益	令和3年度	令和4年度	増減
運営費交付金収益	9,543	9,630	88
授業料等収益	2,651	3,021	370
施設費収益	201	187	▲ 14
附属病院収益	19,551	20,344	793
受託研究費等収益	916	1,208	292
寄附金収益	545	974	429
資産見返負債戻入	760	-	▲ 760
財務収益	4	7	3
補助金収益 他	1,649	1,745	96
経常収益合計	35,819	37,116	1,297

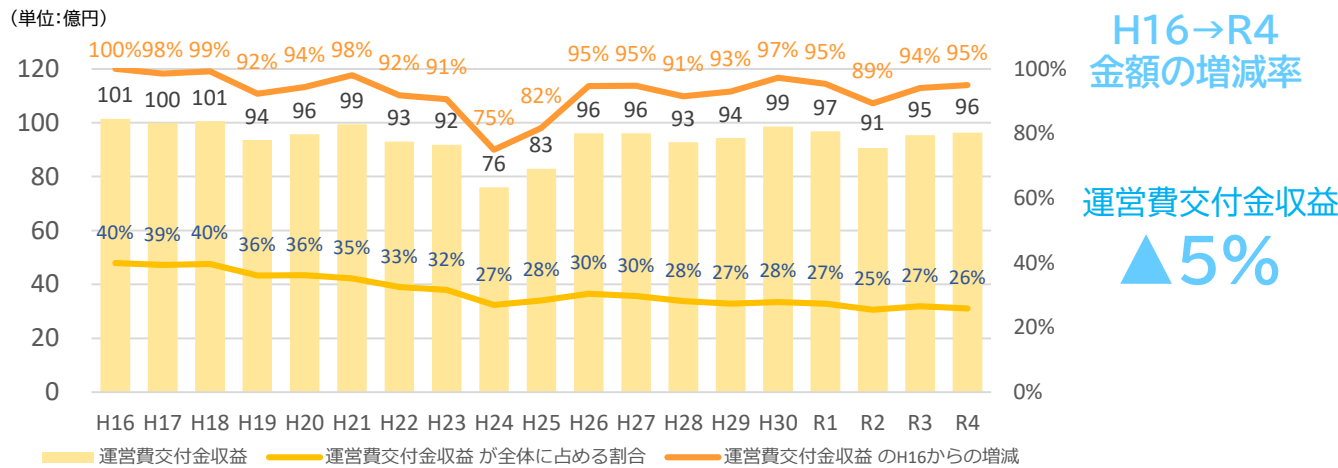
- 経常収益に関する特記事項
- *4 運営費交付金収益 対前年比+88百万円: 運営費交付金の増及び会計基準改訂による資産購入額一括収益化に伴う増
 - *5 附属病院収益 対前年比+793百万円: 手術件数の増加や新規施設基準取得(看護補助関係)等による診療単価上昇に伴う増

第1期中期目標期間から現在までの推移

(単位:百万円, 百万円未満四捨五入)

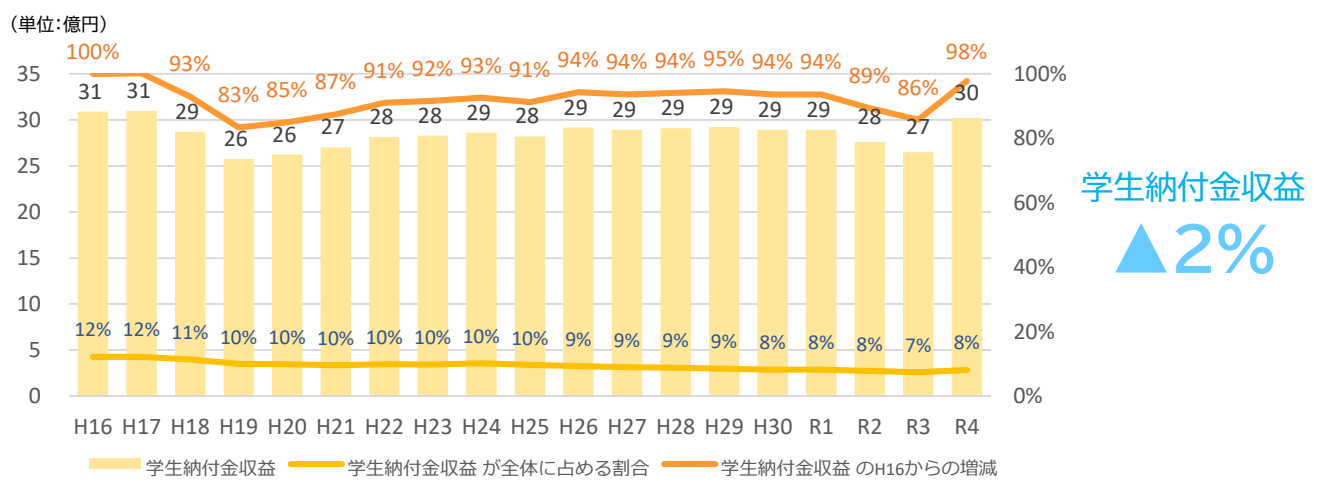
中期目標期間	第1期 平成16年度	第2期 平成22年度	第3期 平成28年度	令和3年度	令和4年度	増減 (R4対前年度比)
経常費用						
業務費	22,619	26,672	32,647	34,910	35,706	796
教育経費	731	1,157	1,330	1,260	1,337	77
研究経費	998	1,562	1,547	1,528	1,369	▲ 159
診療経費	6,727	8,275	12,068	13,490	13,700	210
教育研究支援経費	421	458	424	449	453	5
受託研究(事業)費等	493	1,238	1,090	913	1,204	291
人件費	13,248	13,983	16,188	17,270	17,643	373
一般管理費	559	605	610	640	676	36
財務費用	465	177	152	73	58	▲ 15
支払利息	465	177	152	73	58	▲ 15
その他の財務費用	0	0	0	0	0	0
雑損	-	6	-	-	-	-
経常費用合計	23,643	27,461	33,409	35,623	36,440	817
経常収益						
運営費交付金収益	10,406	9,305	9,278	9,543	9,630	88
学生納付金収益	3,068	2,812	2,909	2,651	3,021	370
附属病院収益	10,007	13,443	17,006	19,551	20,344	793
補助金等収益	0	324	208	1,314	1,382	68
受託研究(事業)費等収益	499	1,227	1,088	916	1,208	292
寄附金収益	444	293	499	545	974	429
資産見返負債戻入	1,035	794	1,369	760	-	▲ 760
その他	182	386	573	540	557	17
経常収益合計	25,642	28,584	32,929	35,819	37,116	1,297
経常利益	1,998	1,123	△ 479	196	676	480
臨時損失	1,344	18	17	77	24	▲ 54
臨時利益	1,543	13	13	378	5,986	5,608
目的積立金取崩額	-	-	-	65	-	▲ 65
前中期目標期間繰越積立取崩額	-	-	5	-	354	354
当期総利益(△は損失)	2,197	1,119	△ 479	561	6,992	6,431

主要な経常収益が全体に占める割合と推移

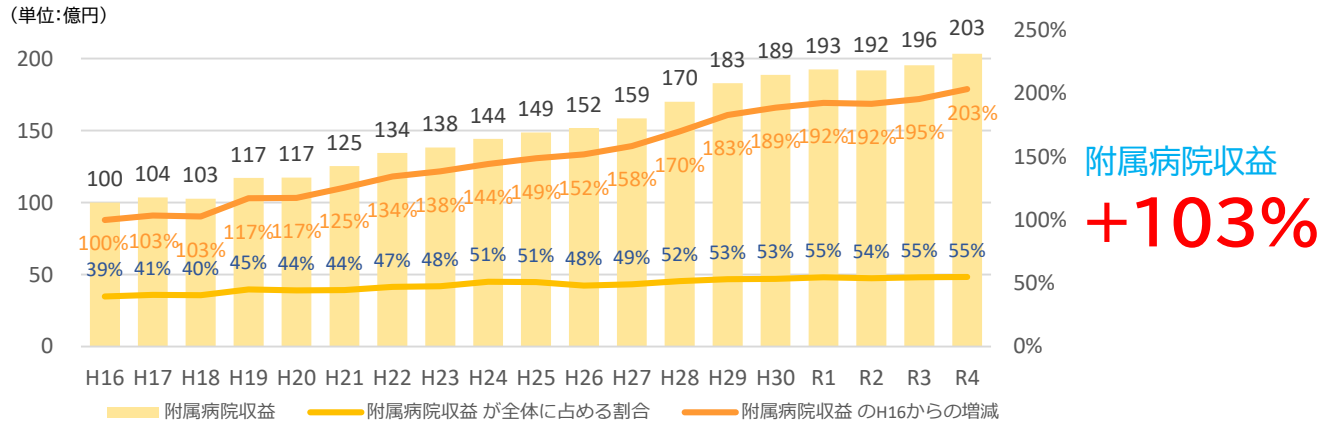


H16→R4
金額の増減率

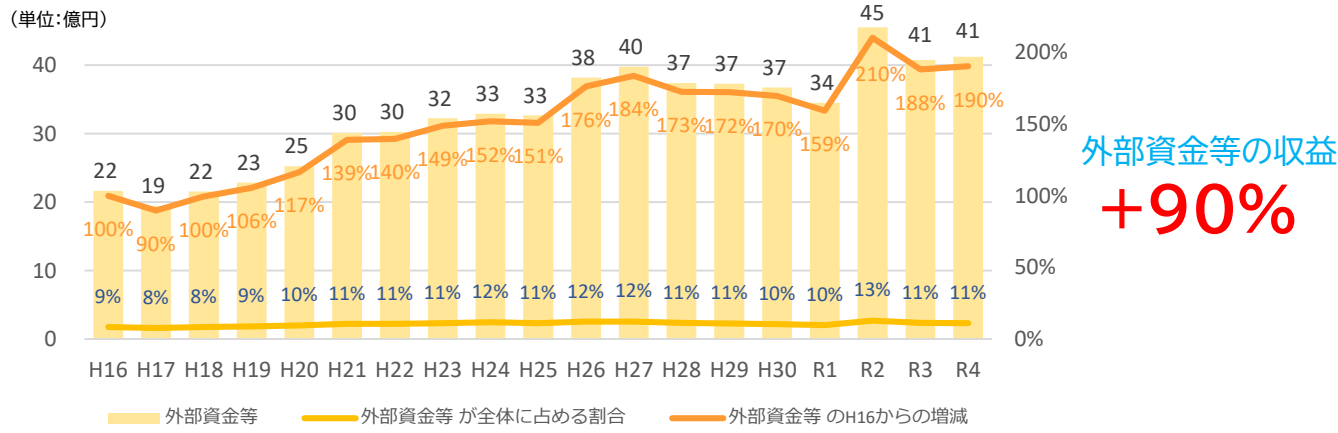
運営費交付金収益
▲5%



学生納付金収益
▲2%



附属病院収益
+103%



外部資金等の収益
+90%

利益の処理

(単位:百万円、百万円未満四捨五入)

I 当期末処理利益	
当期総利益	6,992
II 当期処分額	
積立金	6,760
教育研究環境向上積立金(目的積立金)	233

キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー計算書とは、資金の調達や運用状況を明らかにするため、一事業年度の資金の流れを「業務活動」・「投資活動」・「財務活動」の三分に分けて表示し、報告するものです。

(単位:百万円、百万円未満四捨五入)

活動区分	R4年度
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	5,034 (+)
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	▲2,566 (-)
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	▲1,559 (-)
IV 資金増加額・減少額	909
V 資金期首残高	6,674
VI 資金期末残高	7,583

I 業務活動：プラス計上となり、業務活動が順調に行われたことを表す。
II 投資活動：固定資産の取得及び有価証券の取得によりマイナス計上となったが、本学が積極的に施設等を更新し、資金を運用していることを表す。
III 財務活動：リース債務の返済や借入金の返済に伴いマイナス計上となっているが、適正に債務の返済を行っていることを表す。

第1期中期目標期間から現在までの推移

(単位:百万円、百万円未満切り捨て)

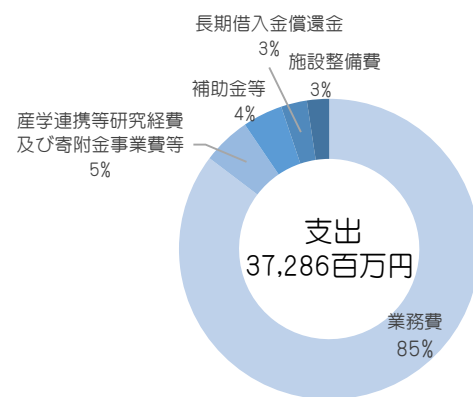
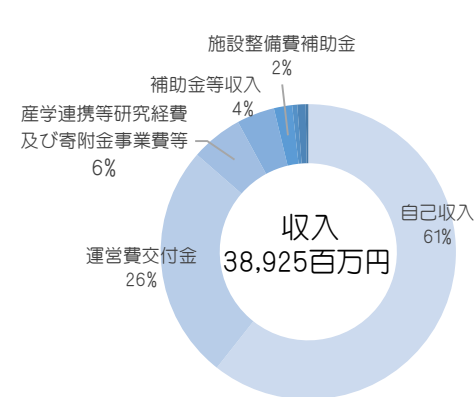
中期目標期間	第1期 16年度	第2期 22年度	第3期 28年度	令和3年度	第4期 令和4年度	増△減 (R4対前年度比)
I 業務活動によるキャッシュ・フロー						
原材料、商品又はサービスの購入による支出	▲3,786	▲9,370	▲12,063	▲14,392	▲14,042	350
人件費支出	▲12,532	▲14,554	▲16,667	▲17,211	▲17,687	▲476
その他の業務支出	▲3,396	▲620	▲605	▲449	▲571	▲122
運営費交付金収入	11,015	9,919	9,489	9,711	10,032	321
学生納付金収入	2,753	2,980	2,877	2,757	2,783	26
附属病院収入	9,891	13,224	16,865	19,448	20,142	694
受託研究(事業)費等	540	1,212	1,085	995	1,224	229
補助金等収入	-	513	288	1,803	2,087	284
寄附金収入	435	602	601	796	820	24
その他収入	197	281	466	158	243	85
小計	5,117	4,190	2,336	3,617	5,033	1,416
国庫納付金の支払額	-	▲427	▲15	-	-	-
業務活動によるキャッシュ・フロー	5,117	3,762	2,321	3,617	5,033	1,416
II 投資活動によるキャッシュ・フロー						
有価証券の取得による支出	-	-	-	▲300	▲300	0
有形固定資産の取得による支出	▲731	▲3,307	▲4,037	▲2,540	▲2,649	▲109
無形固定資産の取得による支出	▲13	▲23	▲24	▲56	▲73	▲17
減価償却引当特定資産の繰入による支出	-	-	-	-	▲540	▲540
定期預金の預入による支出	-	▲11,497	▲7,010	▲9,000	▲8,900	100
定期預金の払出による収入	-	12,368	7,160	8,300	9,100	800
施設費による収入	71	791	670	1,032	790	▲242
その他の投資支出	0	0	0	▲74	0	74
小計	▲673	▲1,667	▲3,241	▲2,637	▲2,571	66
利息及び配当金の受取額	0	10	4	4	6	2
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲673	▲1,656	▲3,237	▲2,633	▲2,565	68
III 財務活動によるキャッシュ・フロー						
長期借入れによる収入	-	96	3,479	-	97	97
長期借入金の返済による支出	-	▲185	▲513	▲868	▲961	▲93
大学改革支援・学位授与機構債務負担金に係る支出	▲1,397	▲456	▲290	▲65	▲40	25
大学改革支援・学位授与機構債務からの借入	489	-	-	-	-	-
リース債務の返済による支出	▲5	▲687	▲383	▲595	▲596	▲1
小計	▲913	▲1,233	2,292	▲1,528	▲1,500	28
利息の支払額	▲426	▲180	▲152	▲72	▲58	14
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲1,340	▲1,414	2,140	▲1,601	▲1,558	43
IV 資金に係る換算差額						
V 資金増加額	3,103	691	1,224	▲617	909	1,526
VI 資金期首残高	2,033	5,781	7,190	7,291	6,674	▲617
VII 資金期末残高	5,137	6,473	8,415	6,674	7,583	909

決算報告書

決算報告書とは、国における会計認識基準に準じ、現金主義を基礎としつつ出納整理期の考え方を踏まえ、一部発生主義を取り入れて国立大学法人等の運営状況を収入・支出ベースで報告するものです。

注) 単位: 百万円, ()内は内数です。
百万円未満は四捨五入しており、計は必ずしも一致しません。

区分	予算額	決算額	収支差 (決算 - 予算)
収入			
運営費交付金	9,988	10,033	44
施設整備費補助金	1,065	777	▲288
補助金等収入	979	1,619	641
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	14	14	-
自己収入	24,448	23,603	▲845
(授業料、入学金及び検定料収入)	(2,747)	(2,784)	(37)
(附属病院収入)	(20,302)	(20,142)	(▲160)
(雑収入)	(1,400)	(677)	(▲723)
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	1,793	2,211	418
引当金取崩	234	216	▲18
長期借入金収入	123	98	▲26
目的積立金取崩	392	354	▲38
計	39,037	38,925	▲111
支出			
業務費	34,269	31,816	▲2,453
(教育研究経費)	(13,563)	(13,232)	(▲330)
(診療経費)	(20,706)	(18,584)	(▲2,123)
施設整備費	1,079	889	▲190
補助金等	847	1,603	756
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	1,793	1,936	143
長期借入金償還金	1,049	1,042	▲6
計	39,037	37,286	▲1,751
収入-支出	0	1,639	1,639 *



決算報告書に関する特記事項

- * 収入-支出額 1,639百万円:
 - 退職給付引当金、賞与引当金増減額 300百万円
 - 外部資金の繰越額 292百万円
 - (受託研究費等・寄附金・補助金)
 - その他の繰越額 1,048百万円
 - (退職手当・医療機器整備事業・施設整備事業等)



第1期中期目標期間から現在までの推移

(単位: 百万円, 百万円未満四捨五入)

中期目標期間 区分	第1期	第2期	第3期		第4期	増△減 (R3対前年度比)
	16年度	22年度	28年度	R3年度	R4年度	
収入						
運営費交付金	11,015	9,920	9,489	10,276	10,033	▲243
施設整備費補助金	72	746	646	1,049	777	▲272
施設整備資金貸付金償還時補助金	26	-	-	-	-	-
補助金等収入	-	683	237	1,654	1,619	▲35
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	-	45	30	30	14	▲16
自己収入	12,649	16,476	20,171	22,696	23,603	907
授業料、入学金及び検定料収入	2,595	2,981	2,878	2,759	2,784	25
附属病院収入	9,900	13,225	16,865	19,403	20,142	739
雑収入	154	270	428	533	677	144
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	3,023	1,844	1,719	1,757	2,211	454
引当金取崩	-	80	169	214	216	2
長期借入金収入	489	96	3,480	0	98	98
目的積立金取崩	-	-	5	246	354	108
計	27,275	29,891	35,945	37,921	38,925	1,004
支出						
業務費	21,611	24,521	28,259	31,421	31,816	395
教育研究経費	11,466	12,690	12,417	13,158	13,232	74
診療経費	10,145	11,830	15,843	18,263	18,584	321
施設整備費	561	888	4,155	1,079	889	▲190
補助金等	-	679	237	1,693	1,603	▲90
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	1,004	1,506	1,655	1,492	1,936	444
長期借入金償還金	1,850	807	918	985	1,042	57
計	25,027	28,400	35,224	36,670	37,286	616
収入-支出	2,248	1,491	721	1,251	1,639	388



統合報告書2023は、福井大学の財務・非財務情報から、大学価値の向上に資する重要度の高い情報を集約することで、ステークホルダーの皆様が理解しやすい内容に編集しました。より詳細な情報に関しては、本学ウェブページに掲載しています。

財務諸表の公表について

(<https://www.u-fukui.ac.jp/cont/about/finance/management09/>)



福井大学の特色ある取組

(<https://www.u-fukui.ac.jp/cont/about/public/pub/distinctive/>)



中期目標・中期計画

(<https://www.u-fukui.ac.jp/cont/about/outline/management01/>)



基礎資料

(<https://www.u-fukui.ac.jp/cont/about/public/pub/material/>)



大学案内

(<https://www.u-fukui.ac.jp/cont/about/public/pub/viewbook/>)



環境報告書

(<http://ems.ou.u-fukui.ac.jp/iso/d-01.html>)



ウェブサイトのご案内

研究に関する情報 — 研究シーズ情報 —

(<http://www.hisac.u-fukui.ac.jp/seeds/seeds25/top.html>)



教育に関する情報 — 3つのポリシー —

(<https://www.u-fukui.ac.jp/cont/about/about/policy/>)



国立大学法人ガバナンス・コード

(<https://www.u-fukui.ac.jp/cont/about/disclosure/management11/governancecode/>)

